

# 第373回12月定例県議会で一般質問

## 令和8年 2026 県政へ実行力発揮!!



### 県立病院の役割と課題について～公益性と経営のはざままで～

#### (1) 高度急性期・専門医療の現状と課題について(はり姫・こども病院)

**北野** 播磨姫路医療圏域にある「はり姫」の救急応需率は90%前後であり、外来件数は一日1200人を数え、大学病院とも遜色のないレベルにある。しかし、県立病院の使命を果たす為の良い医療を追求すればするほど病院経営を圧迫する矛盾が生じているのが現状。

一方、県立こども病院の病床稼働率は、78.8%と目標88.4%より低く推移しており、稼働率だけで必要量を測ると、稼働に沿った人員削減が優先されるこ

とも考えられるが、緊急入院対応が困難な状態になる可能性があるため大きな問題。

病床稼働率による職員配置数の削減については慎重に検討する必要がある。県立病院の高度急性期医療・高度専門医療の質を維持しながら、経営改善をどう図っていくのか？

**病院事業管理者** 今年度から実施している病棟の一時休止や職員配置の適正化などの収支改善策も、診療機能を損なわない範囲で行っている。「安全で良質な医療の提供」と、「安定した経営基盤の確保」の両立は極めて困難な課題だが、その実現のために強い決意で経営改善に挑む。

#### (2) 設置者(県)の責任と覚悟について

**北野** 財政措置等、「県民の命の最後の砦」としての県立病院の役割を果たすことを優先するのか、経営改善のみを優先するのか、覚悟と責任を伺う。

**知事** 病院事業は独立採算が原則だが、現場の危機感をしっかりと共有している。県立病院が求められる役割を果たし、安定した経営の両立が図れるよう国の総合経済対策を活用した支援など、設置者としての責任を持って検討を進める。

**北野** 柔軟で効率的な経営が可能な独立行政法人化に向けて転換を考えていくべき局面にある。

**知事** 独法化の議論は今後、中長期的にはないと思うが、まずは今の病院経営の体制の中で、持続可能な病院経営を追求していく。

#### (3) 地域医療連携について

**北野** 県立病院の機能をより効果的に発揮させるため、患者の回復期を担う病院との連携は重要であり、回復期病床の確保は、県医療行政の重要な役割といえる。人口減少が進む中、今後、需要と供給のバランスを踏まえた病床確保など、地域の実情に応じた医療機能の分化・連携をどのように進めていくのか？

**保健医療部長** 地域医療構想を策定し、その実現に取り組んできた。地域医療構想調整会議での医療需給データ等による議論を踏まえ、新たな地域医療構想を策定し、医療機能の分化・連携や必要な病床機能の確保を支援するなど、それぞれの地域の実情に応じた医療提供体制の構築に取り組む。

### 誰も取り残さない社会の実現について

#### (1) 「ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)」の整備について

**北野** ひょうごユニバーサル社会づくり総合指針で掲げる基本理念で示された「全ての人とその能力を発揮して、多様な社会参加・参画ができる社会」の実現に、パラスポーツの全県中核拠点となる「ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)」の整備が不可欠。今後どのように取り組むのか？

**福祉部長** 令和6年8月にユニバーサルなスポーツ施設検討会を設置し、ハード・ソフトの両面から県内のパラスポーツの環境整備について、全県中核拠点の在り方や、市町立や民間の施設を含めた競技毎の圏域拠点の在り方などについて検討してきた。検討会の最終報告書の内容を踏まえ、県として、



全県中核拠点を含めた県全体の障害者スポーツ施設の在り方について方向性を出していきたい。

#### (2) 中央こども家庭センターの更新整備について

**北野** 県下の児童養護施設では、一時保護委託を受ける件数が増えることで、職員の確保など様々な弊害が生じていると聞く。そのような中、中央こども家庭センターの一時保護施設は開設から30年以上が経過し、経年劣化や個室化ニーズの拡大等、施設の機能・狭隘化・アクセスなど諸課題を抱えている。早期に建替えや移転を含む具体的な改善計画の策定等を進める必要があると考えるが、当局の見解を伺う。

**福祉部長** 「子どもの最善の利益」の実現に向け、時代のニーズに即した施設の今後の方向性を検討する「中央こども家庭センターの今後のあり方検討委員会」を設置した。先般開催した第1回委員会で

は、委員から「国は一時保護施設のユニット化を推奨しているが課題もある」「子どもの意見も聞いた方がいい」「施設全体が暗くて狭い印象である」など様々な意見がだされた。今後、課題や論点の整理を行い、令和8年度の早い時期に委員会として提言をまとめるなど、施設のあり方の検討を進める。

#### (3) ユニバーサルツーリズムの推進と課題について

**北野** 2023年、兵庫県は全国初となる「高齢者、障害者等が円滑に旅行することができる環境の整備に関する条例」、通称「ユニバーサルツーリズム推進条例」を施行した。より一層、選ばれる兵庫県として誘客を図るためにも、高齢者・障害者等の旅行をサポートするユニバーサルツーリズムセンターへの伴走型の支援が必要。

**産業労働部長** 受入体制の充実に加え、誘客増に向けた取組が必要なため、新たに、車いす利用者を想定したファミトリップの実施や誘客を見据えた情報発信を強化している。2030年の神戸空港国際定期便の就航を見据え、ユニバーサルツーリズムの潜在的需要を確実に兵庫に取り込みたい。全県に広げていくためには、困難を抱える方々のニーズを理解し、当事者や支援者とのネットワークを持つ県内各地のユニバーサルツーリズム推進団体との連携が必要。引き続き、官民一体で取り組み、人づくり、宿・施設づくり、エリアづくりの3本柱のもと、誰もが気兼ねなく旅行を楽しめる兵庫を目指す。

### 不妊症等に関する支援推進条例による不妊治療の状況と課題

**北野** 令和7年7月1日に当条例が施行され、「安心して不妊治療を受けられる体制整備」を継続的に推進する事が明文化された。妊活サポートの効率的な広報活動の充実併せて妊活に関する正しい知識の普及・プレコンセプションケアの充実・助成金による負担軽減等、不妊治療支援を一時的なもので終わらすことなく、継続的に推進することが、条例をより効果的なものにするために重要。

**知事** 男性不妊を含む専門相談体制の充実、経済的負担の軽減など体系的・継続的な取組を進める環境を整えた。治療と仕事の両立支援に向けた企業への働きかけなど、市町とも連携して取り組む。補助事業の申請者へのアンケート調査などで、新たなニーズや当事者の意向を踏まえながら、支援充実に向けた施策を推進する。



「先進不妊治療医療機関」リプロダクション大阪へ。生殖医療の現場「胚培養ラボ」も視察



自民党県議団健康福祉部会長として障害者スポーツ交流館を視察